

## 令和5年度 授業改善推進プラン 理科

### ①「大田区学習効果測定」結果の分析と課題（昨年度の改善策の結果分析も含む） ※3年生はワークテスト及び授業の様子からの分析

3年	【知識・技能】	「子葉」、「昆虫」など、科学的な用語が定着するよう復習する必要がある。 「ゴムと風の力」では、ゴムが元の形に戻ろうとする想像をすることができていなかった。
	【思考・判断・表現】	問題、予想、実験、結果、考察、まとめの流れで学習の実験に取り組むよう指導を行った。実験結果から分かったことを図や表、文章でまとめることができるようになってきた。
	【主体的に学習に取り組む態度】	提示された問題や実験に対し、興味をもって予想することはできるようになってきている。学習問題を作る際、「〇〇したらどうなるか」「〇〇と△△を比べるとどうであるか」など、問題を見い出したり考え出したりすることができていない児童が多い。
4年	【知識・技能】	「身近な自然の観察」や「太陽と地面のようす」においては正答が多く、区の目標値を上回ることができた。しかし、「昆虫のからだのつくり」や「昆虫の育ち方」の単元については区の目標値を下回り、単元の理解にばらつきが見られた。
	【思考・判断・表現】	「風やゴムのはたらき」では、区の目標値を若干上回ることができたが、「電気の通り道」では、区の目標値を大きく下回る結果となった。実験から問題を見い出す力や実験結果を考察する力に課題があることが分かった。
	【主体的に学習に取り組む態度】	ほとんどの単元で区の目標値と同程度または、それより低い結果となった。特に「磁石のせいしつ」では、方位磁針の針の動き方から、磁石の極を確かめられることなどの理解にばらつきがみられた。
5年	【知識・技能】	「昆虫の1年間のようす」を問う問題で正答率が低い。季節によって変わる生き物や植物の様子や、科学的な用語を覚えたりすることに課題がある。
	【思考・判断・表現】	「雨水のゆくえと地面のようす」の問題で正答率が低い。実験操作の誤った点を選択する問題、実験結果を推測する問題共に課題がある。また、記述式の問題の正答率も低く、考えを文章化することにも課題があることが分かった。
	【主体的に学習に取り組む態度】	昨年度よりも上がっている項目もあるが、目標値、区平均を下回っている問題もある。「自然の中の水」「水のすがた」で理由を述べる問題では、正答数が全体の半数以下となり、課題がある。理由をきちんと書く力が身に付いていないと考えられる。
6年	【知識・技能】	「流れる水のはたらき」では、一部、区平均を大きく下回る項目もあるが、全体的に正答率は平均程度であった。顕微鏡の使い方など器具の扱いなどについて課題がある。
	【思考・判断・表現】	全体的に正答率は区平均を下回った。特に、「ふりこのきまり」「物のとけ方」など、実験結果から考察したりすることに課題がある。
	【主体的に学習に取り組む態度】	全体的に正答率は区平均の平均程度であった。区平均を下回るものはなかったが、一人ずつを見ると正答率が高い児童と低い児童で二極化していた。苦手な児童も多くいることが課題である。

## ②授業改善策

- |    |  |
|----|--|
| 3年 | <ul style="list-style-type: none"><li>・科学的な用語を使って、分かったことを書かせたり、説明させたりしながら、基本的な知識の定着を図る。</li><li>・引き続き、問題、予想、実験、結果、考察、まとめの流れで学習に取り組ませる。</li><li>・継続的に授業内で観察の時間を設けて、植物の置き場を工夫することで植物に触れる機会を増やし、児童が興味をもって観察に臨めるようにする。また、動画資料を活用して、昆虫の体や様子を学習し、身近なものとして認識してもらうようにする。</li></ul> |
| 4年 | <ul style="list-style-type: none"><li>・知識を様々な場面で活用できるように、生活や身の回りの自然と関係付けて考えられるようにする。</li><li>・体験的活動の時間を十分にとる。虫眼鏡、温度計、方位磁針などの器具を正しく使えるよう指導する。</li><li>・実験結果を、「言葉・文字・グラフ・表・図や絵」の中から適切な方法でまとめられるようにし、結果を受けての考察を、児童が主体的に考えられるよう、実験の考察方法を具体的に指導する。</li></ul>                    |
| 5年 | <ul style="list-style-type: none"><li>・自然の事物、現象について、理科的な見方・考え方を働かせて、身近な事象と関連させ、予想を立てる活動を取り入れる。</li><li>・予想や仮説をもとにして実験手順を考え、適切に条件制御をして実験できるようにする。</li><li>・科学的な用語を使って考察を書かせたり、説明させたりすることで、知識・理解の定着を図る。</li></ul>  |
| 6年 | <ul style="list-style-type: none"><li>・実験の時間を十分にとり、器具を正しく使えるよう指導したり、確認プリントを用いたりして知識・技能の定着を図る。</li><li>・予想と結果を比べたり、条件によって結果がどのように違うかを比べたり、結果から分かることをよく考察する時間を十分にとり、根拠を明確にして考えを深める指導をする。</li><li>・既習事項を想起させ、学習してきた科学的な用語を使って考察を書かせたり、説明させたりする。</li></ul>                     |